

兵なれば ピアノ弾く手に銃を持つ 敵も味方も 憐れ戦は (古畑絢子 詠)

ピアニストの兵隊さん～ちりめん先生の記～ 3年教養講座から考える「戦争と平和」



穏やかな気候の中で新年を迎えました。令和5年は平和でありたいと強く願いながら、3年生はいよいよ週末の共通テストという戦いを控え、その先の各々の試験に向けて緊張感が増す時期となっています。1月12日、3年生の教養講座では、国語科曾山先生の講座において、講師に「**ピアニストの兵隊さん**」の著者で本校卒業生の古畑博子さんをお招きし、お母様の絢子様の新任教師として過ごした戦中戦後の2年間のお話を題材に授業が展開されました。事前に私にも古畑さんから本を贈呈いただき読ませていただきました。こんなにも読みやすくわかりやすくそして愛溢れる言葉で綴られた戦争を題材にした本に巡り合ったのは初めてで、涙が溢れました。この授業後の生徒の感想が、実に的確で自分はこうありたいとはっきりと意見を述べる事ができている姿に、前同窓会長さまからもお褒めの言葉をいただいたようです。探究学習が高校の学びにも定着してきていることで自分事として物事を捉えられる生徒が増えていること、とてもたのしく思います。ロシアウクライナ問題を始め、令和のこの時代に起こっているむごい事実を目の当たりにし、私達ができることを探りながら今年も各々の探究を深めたいと感じるところです。古畑さんは波田で(新島々駅となり)【**カフェ プレイエル&ギャラリーやましろ**】を営んでいます。すでに会社はありませんがショパンが愛したといわれるフランスのプレイエル社のピアノと、なんと！エラール社のピアノを保有されサロンコンサートなども開催されています。そしておいしいカレーとコーヒー、手作りのケーキもいただけ、併設するギャラリーでゆっくりと絵を楽しむことのできる贅沢な空間です。私は年末に初めてお邪魔し、ショパンの好んだタッチのピアノを弾かせていただき明快な音色に至福の時間を過ごしました。また、本の中に出てくる、ちりめん先生が練習した「ノクターン Op9-2」の実際の楽譜も見せていただきました。戦争と平和と音楽がもたらした「愛」を考えるひと時でした。

